

令和5年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

- ・回収率 全学年で321通の回答があった。回収率は83. 6%である。
- ・生徒の教育活動に対する評価に関して、学習指導については5項目中4項目で90%以上の肯定的評価を得ている。提出物やテストの評価についての項目では80%と昨年に比べ4ポイントほどの低下がみられた。
- ・キャリア教育について「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」79%「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」75%の項目は、昨年度よりも肯定的評価が上がった。世田谷区の研究指定校としての取り組みや「探究的な学びの日」などの取り組みが高評価につながったと考えられる。
- ・学校行事はいずれの項目も90%近くの肯定的評価となっている。
- ・学び舎の活動については、昨年度に比べると肯定的評価の上昇がみられるが、37%と他の項目と比較して低い状況がある。生徒と児童が交流する機会を増やしていきたい。
- ・「学校生活は楽しい」84%、「友達と学校で活動するのは楽しい」90%と、落ち着いた学校生活を送っている様子がうかがえる。

II. 保護者のアンケートより

- ・回収率 全学年で319通の回答があった。回収率は83. 1%。昨年度の23. 5%から大幅に上昇した。すぐ一のアンケート機能を活用し、くりかえしお知らせをしたことが功を奏したと考えられる。また、回収率に大きな差があるため、昨年度との比較は単純に行えない部分がある。
- ・キャリア教育についての評価では、昨年度と比較してどの項目も上昇している。また、生徒は高い評価だが、保護者は「わからない」が多いという傾向がある。親子間で情報の差があるのではないか。
- ・コロナ禍以来、学校に出向く機会が少なくなっていることもあるので、「わからない」が増えてしまうのは致し方ない部分もある。学校にお任せしているという意識の表れでもあるのではないか。
- ・学校行事については肯定的評価が90%を超えており、高い評価を得ている。
- ・学習についてでは、保護者の回答にはばらつきがあるが、生徒の回答は肯定的な意見が多い。
- ・「学校公開にすすんで参加している」の質問項目について、事情があって参加がかなわない場合があることなどを考えると、保護者にとって答えづらいこともあるのではないか。設問の再考も必要かもしれない。

III. 地域の方のアンケートより

- ・回収率 50名にアンケートを送付し、30名から回答をいただいた。回収率は60%。Webアンケートと紙面を併用してアンケートを行った。
- ・学校からのお知らせや学校だよりについては、肯定的評価が97%と高い評価を得ているが、地域意見への対応や地域との連携については「わからない」という意見が多い。地域への発信をより工夫する必要がある。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

- ・「本校は、保護者に指導の重点を伝えている。」という評価項目では、肯定的評価が保護者において71%、地域において94%である。地域は昨年度より上がっているが、保護者は横ばい状況であり、その目的も含め学校だよりや学年だより等様々な方法で引き続き保護者に周知していく努力を行い共通理解をさらに深めていく必要がある。
- ・キャリア未来デザイン教育に関して、生徒は肯定的評価が高いが、保護者は「わからない」という回答が20数%ある。保護者への周知・啓発を進めていくよう求めたい。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・「わからない」の回答が27%~37%と高い数値を示しているが、それ以外の解答の中での肯定的評価は概ね80%と高評価を得ている。地域との連携も十分に機能していると考えられる。
- ・一方で「わからない」の解答の減少に向けて、学校の教育活動を地域により詳しく伝えていく方法を工夫していく必要がある。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・学習指導において生徒の「考えたことを話し合ったり、発表する機会がある」「ICTを活用しわかりやすい授業をしている」の項目への評価が引き続き高い。学校の取り組みの成果といえる。さらに維持・向上させていくことを望む。
- ・生活指導においては、肯定的回答が昨年度と同等である。引き続き、学校の生活指導方針や生徒の学校での様子を様々な方法で家庭に伝え、教職員内で学校のきまりやルール、対応の仕方などの確認と共通理解を図っていってほしい。
- ・学校行事においては、生徒アンケート、保護者アンケートとも肯定的評価が高い。生徒の自己肯定感が高まるよう、今後も事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力をお願いする。
- ・相談活動においては肯定的回答が多い。あいあいタイムを継続し、今後も生徒・保護者と学校との信頼関係を高めていくことを望む。また、保健室・カウンセラーとの連携をさらに強め、教室に行けない生徒たちへの支援を引き続きお願いしたい。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- ・おおむね良好な評価である。
- ・保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である校長のリーダーシップのもと、教職員が協力して教育活動に励んでいる様子について、保護者や地域にきちんと伝わっていることがうかがえるので、継続してほしい。

V. 教育環境の整備について

- ・全体的に、訓練や施設の安全性について、肯定的評価が昨年度と同等であった。学校の安全性について、引き続き保護者や地域へ積極的に情報提供し、周知と理解を徹底してほしい。
- ・各種訓練については、実態に即した内容の見直しを常に行い、適切に行われることを望む。

VI. 学校生活全般について

- ・生徒アンケート「友達と学校で活動することは楽しい」の肯定的評価が90%と生徒の学校生活に対する充足感は高い。
- ・生徒の自己肯定感をさらに高められるよう、心の教育を推進していくことをお願いする。
- ・保護者アンケート「学び舎の小学校との行き来の機会がある」の項目での肯定的評価は86%と近年では高い評価となった。感染症対策で実施を見合わせてきた諸活動が再開されたためと考えられる。引き続き取り組みを継続していくことを望む。

VII. 「学び舎」の目標について

- ①自分にはよいところがある。 肯定的評価 66%
- ②友達と学校で活動することは楽しい。 肯定的評価 90%
- ③自分が住んでいる地域は好きである。 肯定的評価 87%

・昨年度との増減はそれぞれ3%以内であり、ほぼ同様の結果である。①について自己肯定感を高めることが、次年度への課題である。生徒が学習面だけでなく、学校行事や部活動、地域行事などいろいろな場面で活躍できる機会を作り、生徒が前向きになれる指導を強くお願いしたい。

3 学校自己評価について

I. 学校自己評価の方法は適切であるか

- ・適切に実施されたといえる。

II. 学校自己評価の結果の内容は適切であるか

- ・おおむね適切な内容といえる。

III. 学校自己評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

- ・各分掌において、自己評価で出された改善点を確実に引き継ぎ、教育活動の質をより高めていただきたい。

4 学校の課題及び学校への提言

- アンケート集計結果より、全体的には今年度も良い評価結果である。今後も継続努力し、さらなる向上を目指していくこと。
- 保護者アンケートの回収率が向上した点がよかったです。来年度も今年度の方法を継続して回収率の維持に努めてもらいたい。
- 地域との連携において、生徒の地域行事への参加や地域清掃等のボランティア活動を実施することで、地域とのつながりを増やすとともに、未来の地域の担い手としての意識を育て行くこと。また、学校が地域とつながり外に出ることが、家庭と地域をつなぐ機会をつくることにもなると考えられる。積極的に地域との連携を進めてもらいたい。
- 保護者が学校の教育活動について得る情報の多くは子どもからである。思春期の子どもたちから伝わる情報は多くない。広報活動により保護者の知る情報と、実際に子どもが行っている教育活動のギャップを小さくすることが大事であり、保護者や地域との信頼関係を作ることになると思われる。学校における子どもの姿を見せることが、親の学校に対する理解を深めることにつながると考える。
- 学校だよりやホームページの工夫により、生徒の活躍の様子が地域や関係機関に伝わるようさらなる改善を行うこと。

5 総合所見

新たなアンケート方法を導入したことで保護者アンケートの回収率が大きく上がった。保護者アンケート、生徒アンケート、地域アンケート、学校自己評価アンケートの集計・分析については適正に行われている。地域の幼稚園・小学校の子どもは中学校を目指していく。中学校がリーダーとして、各方面へ発信していくことはできないか。校長のリーダーシップの下、保護者に学校の教育活動に対する理解を深めてもらう機会を増やし、地域と協力して「自らの手で未来を拓き、夢を育む学校」を実現することを期待する。

令和5年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会

委員長 井坂 聰
委 員 青柳 義博 菅田 輝代志 谷岡 美貴 外館 孝則 西川 雅子
(事務局) 石綿 健一郎 佐藤 哲 畠 陽子 深沢 享史